

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第106号 2025年3月

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549
発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行
ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coccan.jp/>

2025 年新年会を開催

2025年1月19日(日)にホテル雅叙園東京・「華しずか」の間でご来賓に青木英二目黒区長、山口晋一早稲田大学総長室調査役(校友連携・社会連携担当)兼校友会副事務局長をお迎えし、特別ゲストとして早稲田大学落語研究会の方々に参加していただき新年会を開催しました(出席総数63名)。



川崎会長挨拶



来賓ご挨拶: 山口調査役

田添麻友幹事の司会で16時30分に開会、最初に川崎秀一会長より、次の25年に向けて「明るく楽しく元気良く」をモットーに更なる活発な部会活動への期待が表明されました。続いて山口早稲田大学総長室調査役よりご挨拶をいただきました。

泉実紀子幹事の乾杯の発声により会食が始まりました。青木区長の到着をお待ちしてご挨拶をいただき、川崎会長よりサクラ基金への寄付目録を贈呈しました。



司会: 田添麻友幹事



乾杯: 泉実紀子幹事

おなががり落ちていたところで早稲田大学落語研究会による新春落語。連珍亭米熱(杉崎元紀・教育1年)が「初天神」、宇田川狂亥(乾 崇良・國學院大學2年)が「石返し」、宴児家喧馬(吉村有蘭・文化構想2年)が「崇徳院」を演じ、会場は初笑いに包まれました。



サクラ基金寄付金贈呈



連珍亭米熱 宇田川狂亥 宴児家喧馬

続いて初参加の上崎貴実代さん(11年 政研)、小関純子さん(90年 商)、長谷川直子さん(98年 人科)、山中叶さん(67年 商)の紹介、皆さんから目黒稲門会への期待を述べていただきました。



初参加会員の紹介

新年会、総会でお馴染みになった音楽を楽しむ会の演奏は、広井幹也世話人(ベースギター)、小出統英世話人(キーボード)、山内宏世話人(アコースティックギター)の伴奏で有志による



音楽を楽しむ会

『明日があるさ』の明るい歌声で幕を開けました。

二曲目には早稲田大学校歌の二部合唱に挑戦、主旋律を歌う女性陣の声に圧倒されながらも低音部を担った男性陣も精一杯頑張りました。二曲とも飛び入り参加いただいた山口調査役、ありがとうございました。

宴もたけなわとなって、目黒稲門会 25 周年記念のビンゴゲーム大会となりました。

司会の大島俊輝会員と上田あや幹事が数字を読み上げる度に会場は盛り上がり、一等は落語研究会の吉村有蘭さんに川崎会長より早稲田大学 Uni.Shop



ビンゴゲーム

のラムズウールストールが手渡されました。以下、熱気の中、二十等まで豪華景品や旅行部会の 25 周年記念北海道旅行にちなんだ品々を幸運な会員のみなさんが手にされました。

会場風景①



盛会の中、松田哲也会員による指揮で、都の西北を斉唱して母校の名を讃え、目黒稲門会の益々の発展にエールを送りました。



校歌斉唱
指揮：松田哲也会員



中締め
内山信夫副事務局長

内山信夫副事務局長による三本締めで中締めとなり、参加者の皆さんで集合写真に収まりお開きとなりました。

会場風景②



集合写真

2025年 目黒稲門会新年会 出席者 ご芳名 (敬称略)

《ご来賓》

青木 英二
山口 晋一

《早稲田大学落語研究会》

杉崎 元紀
乾 崇良
吉村 有蘭

《会員・ご家族》(50音順)

安藤 嘉昭	金井 豊男	広井 幹也
石橋 義久	狩野 俊夫	広井 真理子
泉 実紀子	川井 信義	古矢 芙美子
市川 亘	川崎 秀一	細貝 悠
伊藤 悠	菊地 崇之	細谷 清
伊東 佳行	小出 統英	松原 哲也
伊東 ちひろ	小関 純子	松原 仁
今岡 植	後藤 克彦	松原 ひろみ
井村 正陽	齊賀 丈暁	丸山 忠生
岩崎 春雄	佐伯 文子	三沢 美奈子
岩本 昭治	佐伯 友子	村上 柁
上崎 貴実代	佐久間 喬	保井 正宏
上田 心緒	鈴木 まゆみ	山内 叶
上田 あや	高橋 圭吾	山中 博行
内山 信夫	田島 清志	吉田 博明
大内 久美子	田添 麻友	吉野 博治
大島 俊輝	中上 美代子	吉本 美恵
大竹 一子	永田 耕治	
尾崎 充	長谷川 直子	
加藤 千博	林田 雅敏	

(伊東 佳行 記)

各部会からの案内・報告

旅行部会

目黒稲門会設立25周年記念旅行

北海道道東の旅 道中記

12月5日～7日の2泊3日で「北海道道東の阿寒湖温泉、野付半島と日本最東端の納沙布岬を訪ねる旅」を会員17名の参加で実施いたしました。

12月5日
JAL543便にて12時頃45分定刻どおり羽田空港離陸、14



時15分丹頂釧路空港着陸。クラブツーリズムの添乗員佐藤さんの出迎えを受け専用バスにて最初の訪問地、鶴居村・鶴見台へ。例年この時期には多数のタンチ

ョウが見られるはずでしたが、今年は暖冬により給餌



が遅れている為3羽観察出来ました。1時間の観察とソフトクリーム後、本日の宿泊地・阿寒湖温泉に17時半着。夕食はオホーツク産の毛ガニや石狩鍋の和食膳。この日は大人しく就寝となりました。

12月6日 ホテルで朝食後8時出発、弟子屈道の駅で休憩をとり標津経由「野付半島最先端ネイチャーセンター」へ。途中にはエゾシカ、オオワシ、



オジロワシ、キタキツネ等が散見されその都度に歓声があがりました。標津の海岸からは北方領土の国後島をくっきりと見ることができ、その距離は野付ネイチャーセンターまで17キロで、あまりの近さに参加者全員ビックリ。と同時に外交問題に直面したことを実感しました。昼食はちょっと戻り標津の郷土料理「武田」で鮭づくしかホタテづくしを堪能しました。午後は途中「風連湖」そばで休憩しながら日本最東端の根室納沙布岬をめざしました。ここでも北方領土のあまりの近さにビックリ。最直近の貝殻島（岩礁）までは3.7キロしかなく日本の領海はその半分の1.8キロしかない最も狭い領海となっていることにあらためてロシアとの外交問題が身近なものであることを理解しました。

納沙布岬は午後3時41分に日の入りで、東京と比べると約40分早く日本で日の入りが一番早い所です。我々の見学中には薄暗くなり、厚岸を目指した途中にちょうど落日となり、あまりの美しさに一同感動しました。

夕食は厚岸ターミナル・コンキリエにて蛸殻、パフウニ、ホタテやサンマなどを炭火焼で賞味し、その新鮮さを堪能しました。宿泊は釧路プリンスホテルでチェックイン後の有志での飲み会では、釧路の夜景を楽しみました。

12月7日 朝食は徒歩10分「和商市場」での勝手ドンを楽しみました。10時半ホテル出発。釧路湿原根内木道を自由散策した後、湿原を一望できる



北斗展望台を訪れた後に釧路空港へ。15時05分発JAL542便にて東京へ。17時羽田空港着、自由解散。お疲れ様でした。

今回の旅行では川崎会長、旅行初参加の吉野幹事長、常連の小杉さんが直前不参加となり、非常に残念でしたが、楽しい旅行でした。

旅行部会 井村 正陽

ウォーキング部会

第168回ウォーキング部会例会報告 参加19名

2024年10月24日(木)の例会はウォーキングならぬ「神田川クルーズ」と洒落込んだ。

12時50分、快晴の日本橋船着場から出航した。三航路あるクルーズの中で乗船したのは一番人気の「神田川90分周遊クルーズ」である。屋根がなく360°見渡せる快適なオープン型の周遊船が、まず重要文化財・日本橋を潜り日本橋川、神田川、隅田川、そしてまた日本橋川と全部で47橋も潜って巡る歴史散策クルーズだ。運よく校友のリバーガイド



日本橋から出航

が案内してくれる。日本橋川はいわば「江戸城の外堀」にあたる水路だ。日本橋から一石橋にかけて見上げると、あったはずの高速道路が撤去された空間が随所に現れる。15年後、2040年に向けて首都高が川の下トンネルへ移行する地下化工事が始まっているのだ。日本橋川ではこんな感じで、歴史散策と近未来発見のクルーズが楽しめる。

日本橋をはじめ常盤橋、鎌倉橋、一ツ橋雉子橋など、江戸東京の歴史を伝える著名な橋が次々と現れる。さらには江戸城総構えの建設に携わった大名の石工たちが「自分たちの仕事」を示すサイン(記号)を刻み込んだ外堀の「刻印石垣」などを間近に見ながら水路を進む。常盤橋公園の一角には、渋沢栄一の立像が兜町の旧宅方向を見て立っている。



リバーガイド稲垣さんと一行。江戸時代の日本橋川はここで「堀留」だった。

三崎橋の先で小石川橋から東行してくる神田川に入る。井の頭池に源を発する24kmほどの水路の下流部 分約3kmを東へ進む。徳川家康たちが江戸にやってきたころ、ここは本郷台地の一部で神田山と呼ばれていたそうだ。伊達政宗がこの山から一望したところ江戸城内が丸見えだった。そこで城の防御

が案内してくれる。

日本橋川はいわば「江戸城の外堀」にあたる水路だ。日本橋から一石橋

にかけて見上げ

ると、あったはずの高速道路が撤去された空間が随所に現れる。15年後、2040年に向けて首都高が川の下トンネルへ移行する地下化工事が始まっているのだ。日本橋川ではこんな感じで、歴史散策と近未来発見のクルーズが楽しめる。

日本橋をはじめ常盤橋、鎌倉橋、一ツ橋雉子橋など、江戸東京の歴史を伝える著名な橋が次々と現れる。さらには江戸城総構えの建設に携わった大名の石工たちが「自分たちの仕事」を示すサイン(記号)を刻み込んだ外堀の「刻印石垣」などを間近に見ながら水路を進む。常盤橋公園の一角には、渋沢栄一の立像が兜町の旧宅方向を見て立っている。

鎌倉橋、神田橋、錦橋、一ツ橋などの由来を聞きつつ靖国通りを潜る俎橋の先は南堀留橋、堀留橋であ

上問題ありと献策したところ、「ならばそちがやれ」と幕府の命令が下り、掘削開始した。神田山を削ったから神田川となったそうだ。掘削高さは何と20m。伊達家父子三代がかりの壮大な土木工事だったことが伺える。神田川は水道橋からお茶の水にかけて都心では珍しい溪谷状になる。仙台藩由来の仙台堀とも呼ばれる所以だ。

神田川上を行き交う丸ノ内線や、神田川の岸上を走る中央線・総武線や、山手線の電車を見上げながら進む



丸の内線が頭上を横切るお茶の水

と何時の間にか両に屋形船が目立ち始め、神田川の堤の上には柳の並木が出迎える。そう、そこは神田川河口に架かる柳橋。江戸情緒たっぷりの屋形船エリアでもある。

柳橋からいよいよ大江戸全体の、つまり「武蔵の国の外堀」にあたり、かつて大川とも言われた隅田川を南下する。

両国橋を過ぎ首都高7号線が川を横切ると、左手に堅川(たてかわ)、新大橋の先で下総行徳の塩を江戸へ運ぶ航路「塩の道・小名木川」とその脇の公園に鎮座する松尾芭蕉像を眺めながら船は進む。隅田川では重要文化財・清洲橋と東京スカイツリーのコラボレーションが注目ポイント。吊り橋・清洲橋を食卓と見立て、その中央に東京スカイツリーがキャンドルのように立つ絶景を楽しむ。

清洲橋の先で清澄排水機場水門を見やり、暫く行くとこれまた重要文化財の永代橋、昔の「江戸湊」あたりを



清洲橋とスカイツリー

眺めながら船は右折。かつて赤穂浪士が仇討ち後に初代の橋を通ったとされる豊海橋を潜り、日本橋川に戻る。霊岸島や兜神社などを見ながら、麒麟と獅子の彫刻が美しい「名橋・お江戸日本橋」に戻ってきた。

リバーガイドの稲垣さんは73年政経卒の校友で、地域貢献を志してここの案内をされている。途中10分ほどの記念撮影タイムを除き90分間、クルーズの見どころを縦横無尽に説明頂いたお陰で、船上からお江戸東京を見上げる旅をたっぷり味わうことができた。(文:吉野 博明)

俳句部会

兼題：「冬芽」「置炬燵」

川井素山 店番の古書を仕訳の置炬燵
 保井寶正 旬求め釧路の市の牡蠣啜る
 佐久間喬 参道に心ほぐる冬木の芽
 丸山酔宵子 行く末を憂ふ傘寿や初比叡
 吉田啓悟 凧や海に夕日を吹き落す
 青木英林 関門の波音近し河豚の宿
 山本草風 縁日の香具師のだみ声淑気かな
 渡辺鯨波 西行の歌碑に桜の冬芽かな
 原 晶如 青空に寒九の雨を待ち焦がれ
 佐久間たか子 梅冬芽大吉を引き当てし顔
 中村双月 知らぬ間にしてるハミング春隣
 菊地崇之 蠟梅の紅染めて空かくす

俳句部会長 佐久間 喬

スポーツ観戦部会

2024年12月1日〔日〕国立競技場で行われた関東大学ラグビー対抗戦、早明第100回記念試合を12名の会員と応援観戦しました。今年はチケットを23区支部でまとめて購入していただき、まとまった席で観戦できて大変助かりました。

試合ですが、わが早稲田は前半13分に幸先よく先制トライ、しかし明治も5分後に反撃トライを挙げ同点に迫りました、その後互いに得点を挙げ前半は早稲田が12対10とわずかなリードで折り返しました、後半に入るとまず11分に明治が逆転トライ、しかし17分に早稲田が2つ目のトライを挙げ17対17と試合を振り出しに戻しました。その後は早稲田がトライなどで10点リードしましたが明治も良く追いついて3点差まで詰め寄りました。終了間際明治が早稲田陣内深くまで攻め込みましたが、早稲田が決死のディフェンスで守り切り27対24で勝つことが出来ました。この結果早稲田は全勝で対抗戦6年ぶりの優勝です。



早明戦の観戦風景

試合後は皆で渋谷に繰り出し美味しい料理と美酒をたっぷりいただきお祝いしました。

スポーツ観戦部会長 狩野 俊夫

いち月会

12月3日(火) 海鮮寄せ鍋で忘年会、13名参加。1月6日(月)新年会、18名参加、2月3日(月)17名参加。何れも居酒屋 土間土間で開催。

いち月会部会長 菊地 崇之

「女性企画」からのご案内

～男性の参加も大歓迎です！～

昨年、「女子企画ランチ」改め「女性企画」としてスタートした活動についてご紹介させていただきます。

女性会員の増加や、家族会員制度が発足したこともあって、もともとは、女性会員だけでお酒なしで気兼ねなくおしゃべりを楽しむ会を、との要望に応じて発足し、ランチ会を中心にしていたが、ここ数年は、ランチだけでなく、美術鑑賞や音楽鑑賞などさまざまな活動を、女性会員の発案で行うようになっていました。この実態に合わせて、活動の呼称も「女性企画」とすることにいたしました。それに伴い、参加者も女性だけではなく、男性にも大いに参加していただくということになっています。

第一弾は、すでにご紹介した松方正彦会員のライブで、ジャズライブを堪能してきました(詳細は105号をご参照ください)。そして第二弾は、健康セミナーとピアノ独奏のイベントに参加します。

今後は、みなさまにもさまざまなご提案をいただきながら、活動を盛り立てていきたいと思っています。どなたでもご提案、ご参加いただける気軽な会としてご利用ください。お待ちしております。

女性企画世話人 泉 実紀子

2025年の予定

(詳細は会報・HPをご覧ください)
 新年会 1月19日(日)
 23区支部大会 3月2日(日)
 総会 7月6日(日)
 会報の発行 年4回(3・6・9・12月)
 稲門祭・ホームカミングデー 10月19日(日)

部会の活動予定

囲碁 対局戦を毎月開催
 音楽を楽しむ会 演奏会を毎月開催
 食べ歩き 随時(新そば、BBQ)
 ゴルフ 春夏秋にコンペを開催
 ウォーキング 名所・旧跡巡りを毎月開催
 麻雀 偶数月の第3月曜日に開催
 美術・歴史 随時開催
 旅行 宿泊旅行を年一回開催
 いち月 毎月第一月曜日に自由が丘駅近辺にて懇親会を開催
 俳句 句会を毎月開催
 ボランティア 募金と清掃奉仕活動を随時実施
 スポーツ観戦 野球等の対抗戦を観戦
 女性企画 女性が提案する企画を調整・実施

会員の広場

目黒に住んで

今岡 うえき(10年 政経)



2010年に政治経済学部を卒業し、社会人となり、海外勤務・地方勤務を経て目黒区に住むようになってから早数年。現在、職場は洗足、住まいは都立大学という目黒区内での生活を楽しみながら、子育てにも励んでいます。目黒区は、静かな街並みがあり、歴史と伝統からなる豊かな文化が残しつつも、転入者も含めた若者が新しい風を地域に吹き込むことで、活気がありつつ調和のとれたまちだなあと日々感じています。

地域の歴史をさかのぼる「プラタモリ」のような寄稿をご期待の方が多くかもしれませんが、本稿では職場のある洗足と自宅のある都立大学について、若手ならではの視点で、比較的最近のイベント／話題やお気に入りのスポットを紹介したいと思います。

職場のある洗足は、とても穏やかな雰囲気のある街です。緑が多く、落ち着いた住宅街が広がる中で、街全体が優しい空気に包まれています。最近では、洗足商店街を中心に「街路灯プロジェクト」が進行中で、地元出身の影絵作家である藤城清治先生（なんと御年100歳！）が手掛ける街路灯が3月に完成予定です。足掛け2年以上のプロジェクトであり、地元商店街の皆さんが紆余曲折ありながら、粘り強く取り組んでこられました。今回46もの街路灯が設置される予定ですが、既存の作品38作に加え、洗足のために8作新たに創作いただいたとのこと。皆様もぜひ足を運んでいただければと思います（私の事務所も近くにあります）。また、洗足周辺エリアは皇后陛下のご実家があったことでも知られており、駅前のいちょう通りは通称「プリンセス通り」として地元の皆さんに愛されています。定期的に実施している地域のクイズラリーでは、皇后陛下にちなんだクイズが定番となっています。



洗足商店街は目黒区、大田区、品川区の3区をまたぐ都内唯一の商店街としても売り出し中です。

「街路灯プロジェクト」を3区連携の一つのマイルストーンにしていきたいと思っています。行政の「縦割り」を取っ払い、「利用者ファースト」の商店街となるよう、私も一員として頑張っています。

私が住んでいる都立大学エリアも、住めば住むほど味わいのある地域です。かつてこの地には「東京都立大学」が存在し、その名残が街の名前に刻まれています。現在でも多くの学校があり、若い学生たちのエネルギーが街全体を活気づけています。私にとっては、駅付近の呑川緑道を散歩するのが至福のひとつです。緑に癒され、忙しい日常の中で心をリセットできる時間。地元の皆さんが家族やペットとリラックスしながら散歩する景色はなんとも言えません。

また、商店街では「とりつじん」というとても素晴らしい地元プロジェクトがあります。これは、都立大学エリアで活躍する人々を特集する雑誌を発行したり、地域イベントを開催したりと、「人」に着目して街の魅力を発信する活動です。過去には取組が表彰を受けるなど、地元に着目した企画になっています。最近では「とりつじん」を企画する若手の皆さんが中心となってVRゴーグルを活用した展示を行うなど、最新のテクノロジーも活用した商店街活動から目が離せません。

都立大学の跡地には「パーシモンホール」という文化施設があり、ここではさまざまな演劇や音楽・落語など文化イベントが開催されています。都立大学に文化的な香りを漂わせてくれています。ホールの外には公園があり、私の息子もよく遊ばせてもらっています。



今回この機会を頂くと当たり、「目黒区には本当に紹介したいことがたくさんあるな」と改めてその魅力を再発見しました。実は、目黒の魅力的なレストランについても紹介したかったのですが、それはまた次の機会に。

めぐろで第九の合唱団に参加して

山内 宏 (81年 教育)

ベートーヴェンの第九は、ご本人が1824年に作曲した9番目の交響曲としてとても有名です。昨年は、200年の時空間を経て演奏されてきた記念すべき年に「第九」を合唱する好機が、突然訪れました。6月6日の目黒稲門会の目黒清掃工場見学の帰りに伊東事務局長の奥様「ちひろさん」から第九合唱をやりませんかと。



1か月ほど逡巡の後、決意し応募致しました。先ずは8月31日に合唱団の結団式。その後の練習回数は、12月1日の本番日まで18回とかなりハードな練習日程でした。ドイツ語もまともに喋れない、合唱の経験も殆どないそんなスタートからの始まりで、100名程の合唱団員のうちテノールパートで初めての方は、確か3名だったと、12月1日の本番後に知ったのですが、抽選の倍率は3倍位で合唱指導の浅井先生（東京音楽大学）が選考されたとの事。多分ですが、自分はピアノでベートーヴェンの「月光第一楽章」及び「悲愴第二楽章」を勉強した経緯もあり幸運にも選ばれたのかもしれない。

さて合唱のパートはテノールで、8月31日より特訓が始まりました。当初は、楽しむつもりでしたが段々



と苦しむ事が増えて、初心者の自分にとっては、あまりにもハードルの高い挑戦であることを悟りました。何回も諦めようと、でも伊東さんの奥様に声掛けしていただいた事、本番での合唱の私の両隣の方が、「初めは皆同じ経験をしているから頑張れ」と励まされ、当日の本番を迎える事が出来ました。

本番の会場は、めぐろパーシモンホール大ホールにて。指揮者：出口大地、管弦楽：東京フィルハーモニー、ソリスト：高橋絵里（ソプラノ）、「富岡明子（メゾソプラノ）、城宏憲（テノール）、宮本益光（バリトン）、混声合唱：「東京音楽大学の精鋭の皆様とめぐろで第九合唱団」の構成で演奏いたしました。当日のパーシモン大ホールは満席で、大変感激致しました。演奏含め合唱で約25分位でしょうか、その臨場感と言葉では表せないほどの感動及び感謝の連続でした。自分には出来ないだろうと思っていた「第九」本経験を契機に、再びチャレンジ

たいと考えております。もうすぐ70歳の自分ですが、何か目標を持って諦めないことの大切さを、今回携わった皆様から学んだ感じが致します。

いい経験が出来ました、感謝申し上げます。有難うございました。



ベルばらのマンホール

内山 信夫 (85年 教育)

柏市の「ベルばらマンホール」について一筆啓上致します。なぜ柏？ なぜベルばら？ マンホールとは？ ご不審てんこ盛りと推察しますが、小職は昨年からは世田谷稲門会の「歴史部会」に細谷編集長共々参加しております。同会は月一度会員が集り、持回りの当番会員が様々な歴史テーマに沿って話をされる、という趣向で、1月の「フランス革命」回の余談としてこのマンホールが紹介されました。あいにくブルボン朝が似合うようなツラ構えではありませんが、妻の実家がある柏を訪れた際に視察して感心した、というのが一筆の経緯です。

さて「ベルばら」ですが、いわずとしれた日本漫画史に輝く金字塔で、作者の池田理代子先生は、柏駅近くの自宅兼喫茶店で「ベルばら」の大部分を執筆しました。

余談ですが「ベルばら」といえば宝塚を連想しますね？ 実は初演当時（昭和49）の宝塚は「男のブレイブスと女の宝塚は阪急の道楽」とまで言われたお荷物劇団だったものを、東宝に大恩ある「天下の二枚目」長谷川一夫先輩が歌舞伎の手法による大胆な演出で起死回生の逆転サヨナラを放ち、その後の宝塚隆盛に繋がる、という由来があるそうです。

肝心のマンホールは三カ所設置され、一つは柏駅隣接の高島屋前、一つは駅徒歩5分の柏総鎮守柏神社前、一つは駅徒歩25分、妻の実家徒歩40秒、柏レイソル本拠地隣り、我が亡犬お散歩御成道である日立台公園正面で、カラフルな意匠はファンにはたまらない趣です。惜しむらくはどこも何の紹介も看板もなく、知らない人は全く気付かず、もっと宣伝すればいいのに、ってところです。

ご興味があれば「柏 ベルばら マンホール」とかで検索してみてもいいでしょうか？

そろそろ字数が迫りました。

あなかしこ あなかしこ



会員ギャラリー

『目黒での黄葉した銀杏』 写真

狩野 俊夫 (67年 理工)
晩秋の夕陽に輝いている大銀杏、真っ青な空の色と松の深い緑、紅く染まったドウダンつつじ、色のコントラストが素晴らしい八雲・東光寺の門前でした。



新入会員

山中 叶(やまなかかのう)(67年 商) 世田谷区尾山台

高校時代はボート部でしたが、今は一に合気道、二にゴルフ、三にカラオケ。好きなものは旅行、食べることと体を動かすこと。じっとして家にいるのは嫌いなのでほぼ毎日外出します。



合気道は学生時代に初めて62年、現在も週に3~4回、学生との稽古と吉祥寺にある私の先生の道場で稽古。*私の先生は95歳、まだ現役で合気道の指導をしています。

ゴルフは50歳から始めて30年、月に3、4回ゴルフを楽しんでいます。エイジシュートが目標ですが、このままだと90歳になりそう。

カラオケはとても下手で、みんなに喜ばれていました。三年ほど前から女房を渋谷の鍼灸院に毎週連れて行き、空き時間に一人カラオケ、そのおかげで何とか全国平均手前まで行くようになり、あまり喜ばれなくなりました。

小関 純子(こせきじゅんこ)(90年 商) 碑文谷

目黒区で生まれ育ちました。早稲田大学が大好きで商学部に入學しました。卒業後は大学とは関わりなく過ごしていましたが、昨年のホームカミングデーで商学部、及びゼミの友人と集い、校歌「集り散じて 人は変れど 仰ぐは同じき理想の光」を唄い、いい大学だったとしみじみ思いました。



大学時代は、テニスサークルに所属していたことから、目黒区のテニス教室に通い、それをきっかけに同学部の先輩方にお会いすることができました。ご紹介により、目黒稲門会に入会させていただき、とても嬉しく思っています。今年は、早稲田生に偶然、巡り会い、また大学に行く機会も増えてきました。やはり、早稲田大学は私の「心のふるさと」と感じるこの頃です。どうぞよろしくお願ひいたします。

安田 定美(やすださだみ) (75年 法) 原町

これからの生き方

人生やり残したこと、やりたかったことがひょっとするとあったかもしれないなどと考える今日この頃です。

できたことでは、学生時代のスキー部創設・拡大、社会人になってからの担当事業拡大、東日本大震災への対応など人生に影響していると思っています。

これからの余命でどんなことができるかわかりませんが、これまでと同じように、こんなことをやったよと言えることをやりたいと思っています。

例えば、病院関係のお手伝い、医療や福祉関係のお手伝い、社会の不合理や悪から子供を守るお手伝い、子供の育成を見守るお手伝いなどこれまでに自分や、自分の子供たちがお世話になってきたことを実の社会で一つでも恩返しをさせていただきたいと思います。次男が小さいころ小児喘息という病気を患い、それを克服してきました。何があったからそれができたのかわかりませんが、私にも今困っている方に差し伸べられる魔法の「杖」が持てたらうれしいと思います。



近藤 英次(こんどう・えいじ)

メディア関連企業に約40年勤務し、今夏退職します。これを契機に地域活動をしたいと思い、稲門会に入会を申し込みました。会社員時代とは異なる新たな親交を地元の皆様と深めたいと希望します。退職後はキャリアを活用し、企業広報の支援をフリーとして続けます。現在の勤務先および後継企業の個人情報の公開ルールで、経歴の一部を自己紹介文に記載できないことをお許しください。



1960年生まれ、熊本市出身。高校まで過ごしました。目黒区には大阪転勤から戻った1995年より住んでおります。人事異動で岩手、大分、鹿児島に赴任しましたが、戻るのはいつも目黒区でした。

運動神経は鈍く、体力も自信ありませんが、港区のジムでコア・トレーニングを週2回ほど続けています。「筋肉貯金」をしたいと考えウォーキング部会に興味を持っています。東京五輪の広報サポートの経験からボランティア部会にも関心があります。皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

稲垣 博信 (69年政経) 25年1月11日 (79歳)

編集後記

23区稲門会で年に4回もの印刷物会報を発行しているのは当会だけで、100号に到達した会は他に一稲門会だけです。発行に携わった先輩方の意気込みを感じつつここに106号をお届けします。(細谷記)